

実践記録

学校/学年	小学校 / 6 年	
教科等：単元名	総合的な学習：情報モラル「ネットいじめは絶対やめよう」	
キーワード	ネットいじめ メール 掲示板	
情報モラル指導モデルカリキュラム表における目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	a3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ
	中目標項目番号 中目標項目内容	a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する
授業会場	☒ パソコン教室 ☐ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	ネットいじめがどんなものかを知り、メールや掲示板への無責任な書き込みを絶対にしないという判断ができる。	
使用教材	教材名	事例で学ぶ Net モラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL 等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶ Net モラル」

○ 展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1 ネットいじめとは、どんなものがあるのか、予想する。 2 映像クリップを見る。	・メールや掲示板への書き込みなどにおける問題は、知っている児童もいるので、発表させ観点をつかませておく。
展開	3 主人公は、なぜ学校へ行けなくなったかを考える。 4 メールや掲示板を使うときに、どんなことに気をつけなければいけないかを考える。	・本人に面と向かって言うのではなく、匿名(名前を隠して)で悪口を書かれたために、学級学校すべての友だちが疑わしく思えて、誰も信じられなくなってしまった。これがネットいじめの恐ろしさであることを確認したい。
おわり	5 まとめの映像を見て振り返りをする。(感想を学習カードに記入する。)	ネットいじめの恐ろしさを知り、メールや掲示板に無責任な書き込みを行わないという考えを持てたか。

○ 授業の成果

- ・親どうしのメールのやりとりで悪いうわさが広まる例も多く聞かれるので、携帯電話を持つ割合が増える中学へ進む前に、メールのやりとりにおいても、責任持った情報を発信しなければならないことを学んでおくのにも有効であると思われる。
 - ・無記名のアンケートをとると、本音を書いてもらえて良い面もあるが、まるでストレスのはけ口のように理不尽なことを書いてしまう大人も多くなってきているので、掲示板への書き込み問題は、子ども達に考えさせるのにはとても良い題材であると思われる。
 - ・無記名だから何を書いてても良いという気持ちにブレーキはかかったと思われる。
- (授業の感想から：ネットで悪口を言うのはいけない事だと改めて分かった。私も最初は よう子さんはひどいと思ったけど、みんなで書き込みするのはもっとひどいと思った。 ネットいじめはひどく卑怯な手段のいじめだと思った。3人からあっという間に全体に 広まってしまって、とてもこわいと思った。など)

○ 指導のポイント・留意点

- ・メールでは一部の情報しか伝えられず、うわさは伝言ゲームのようにどんどん内容がふくらみ、ひどくなっていくことがあるので、言葉には十分に気をつけて、責任を持って発信しなければならないこと、特に他人の悪口などはメールで送るべきものではないことを学ばせたい。
- ・一方掲示板では、ハンドルネーム(ネットワーク上で活動するときに用いられる別名)で書き込むので、ちょっとした心でひどいことを平気で書いてしまう大人がいるということ。読む人は、ただ文字を見て考えるので、詳しい事情も知らずに、さらにどんどん書き込んでいき、取り返しのつかない大きな問題となっていくことがあることを学ばせたい。
- ・携帯電話の利用が増え始める中学校に進む前の小学校高学年児童にぜひこの教材を扱っていただきたい。